

第10回中部歴史まちづくりサミット 共同宣言

中部地方には、数多くの歴史ある建造物が現存し、また先人から受け継がれた祭礼行事や文化など、そこに住む人々の生活に地域固有の歴史や伝統が色濃く反映され、地域ごとに独自の趣と情緒が感じられます。

本日、俳聖・松尾芭蕉の生誕の地、伊賀流忍者の発祥の地、そして20世紀遺産・20選のまちである、ここ伊賀市において、歴史的資源を次世代へとつなぐために、伝統を絶やさぬ努力をしつつ、新たな試みによる活用を図っていく必要があることを確認することができました。

一方でこの令和6年は、元日に発生した能登半島地震により、北陸地方では数多くの史跡や文化財が被害を受けました。

これらの文化財は、地域の人々の心のよりどころであり、近い将来予想される南海トラフ地震に対し、我々も文化の保存、継承について、改めて真摯に考えなければならないと、思いを新たにしました。

今年、歴まちサミットは10回目という節目を迎えることができ、志を同じくする18の都市が集いました。

我々認定都市一同は、時世に合わせた情報発信や観光交流の推進、防災への協力や支援に取り組み、地域の宝ものである歴史的資源を活かしてまちの価値や魅力を向上させ、受け継がれた歴史と文化をよりよい形で後世につないでいくことを宣言します。

令和6年10月3日
中部歴史まちづくり認定都市一同

(高山市、亀山市、犬山市、恵那市、美濃市、明和町、岐阜市、郡上市、名古屋市、伊賀市、岡崎市、三島市、掛川市、伊豆の国市、下田市、津島市、浜松市、西尾市)